令和２年度　兵庫県立農業大学校評価シート

［教育目標］

国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等、変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。

［重点目標］
① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保
② 実践的教育の充実・強化
③ 多様な進路に向けた学生指導の充実
④ 学生の自主活動の活性化

［達成度］の基準
Ａ　目標を上回っている
Ｂ　目標通り進捗している
Ｃ　目標を下回っている

重点目標：①　次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議会委員意見	達成度
〈 現状 〉 ○平成22年度以降は出願者が概ね定員を超えて推移していたが、30年度入学者は23名にとどまった。このため、様々な学生確保対策を講じ、令和２年度は、63名の受験があり最終的に40名が入学した。 ○これまでオープンキャンパス参加者の多くが入学試験に出願しているが、平成30年度は参加者66名のうち受験者が19名（35%）にとどまった。 ○農業高校や農家からの入学者が減少している ○女子学生の割合に年次変動がある。 〈 課題 〉 ○農業に対する意欲の高い学生の確保 ○多くの出願者から選ばれた優秀な学生の確保	オープンキャンパス、学校訪問、イベント、ホームページなど様々な機会やツールを活用して農大の魅力を情報発信し、農大に対する高校生たちの関心を高め、出願者を増加させる。	〈 方策 〉 1　オープンキャンパス開催及び個別見学者の積極的受入れ 2　学校訪問(学生募集）の実施 ・農業高校校長で構成される「兵庫県高等学校教育研究会農水産部会」で説明 ・農業高校の訪問及び担当教諭との連携 ・農業高校・普通高校等を対象とした進路ガイダンス、職業説明会等への参加 3　ＰＲ活動の推進 ・市町、ＪＡ、普及センター及び高校等に対するＰＲ活動 ・ホームページによる情報発信 ・ＰＲ動画をYouTube 配信 ・オープンキャンパスを含む各種イベント開催の記者発表 ・各種イベントへの参加及びその場でのＰＲ活動 ・創立100周年記念事業を糧として、歴史とビジョンの発信 4　農業高校との連携 連携を深化させ、高校から農業大学校へ一貫した教育のカリキュラムの創設を目指す 〈 指標 〉 ○オープンキャンパス参加者：60 人以上 ○オープンキャンパス参加者に対するアンケートでの農大入学希望：7 割以上 ○県内の高校で開催される進路ガイダンスに赴いての学生募集：10 校 80 人以上 ○入学試験出願者数：定員 40 名以上 ○ホームページによる情報発信：月２回以上 ○100 周年記念事業の情報発信：新聞記事等５社以上	1　オープンキャンパス開催、個別見学者の積極的受入れ ・コロナ禍で高校の夏休みが短縮するなかで、コロナ対策の徹底を図ったうえでオープンキャンパスを２回開催（8/5、20） ・参加者は 76 名（平 29：55 名、平 30：66 名、令元：80 名）で、アンケート調査で農大に入学したいと回答 49 名（64%）（平 30：65%、令元：72%） ・個別見学は８組の親子に対応 2　学校訪問の実施 ・コロナ禍で、５月末まで高校が休業となり、その間の進路ガイダンスが中止になった。県農高、播農高の校長との面談、「兵庫県高等学校教育研究会農水産部会」での説明（６月）、進学実績が大きい県農高、播農高、有馬、但馬農高の進路指導担当教諭への説明に出向いた。オンライン説明（播農高）、ダイレクト資料送付（上郡高）に対応 ・10 校の進路ガイダンス・職業説明及び進学相談会に出向き、農大への進学メリットを説明 105 名（平 30：11 校 110 名、令元：８校 72 名） 3　ＰＲ活動の推進 ・学校案内パンフ、ポスター及び学生募集要項を市町、ＪＡ、普及センター及び農業高校に配布 ・農大ホームページでの情報発信（トピックス月平均 1.7 回）や、新たにＰＲ動画をYouTube で配信した（１月） ・新聞での農大の講義、卒業生の活躍紹介４回掲載 ・創立 100 周年記念式典（11/1）は新聞掲載４社、サンテレビニュースで放映 4　農業高校との連携 兵庫県教育研修所と連携し、農業高校教員研修を合同で企画し、農大を会場とした実施計画策定（令３年11月開催）	○ＰＲ活動の継続 ・進路ガイダンス等への積極参加 ・「兵庫県高等学校教育研究会農水産部会」及び農業高校への訪問説明 ・ホームページでのトピックス情報発信の強化 ・県教育研修所と連携した農業高校教員むけ研修を実施し、併せて農大の取組をＰＲ ○学生に魅力ある教育の強化 農業高校と合同で実習カリキュラムの研究を行い、高校から大学校に一貫性のある農業教育を目指す 研究テーマ案 ①ＩＣＴを活用した環境制御技術の実践学習（施設園芸） ②但馬牛管理技術の高度化 ○入学試験制度の改正を検討 ・農業高校との連携を図り、就農意欲が高い、優秀な学生を確保のためのあり方を検討 検討案 ①推薦合格枠の拡大	●コロナ禍で、オープンキャンパスの開催方法や、学校訪問等に制限がある中、目標以上の参加者や説明者を確保し、学校ＰＲを実施したことは評価できる ●農大としての積極的な情報発信が重要であり、①農大で何が学べて（最新技術や専攻カリキュラム内容等）、何が出来るのか（資格取得等含む修得可能技術）、②卒業生等の進路や就農状況等のパンフや動画などでの紹介、③見学やオープンキャンパスを含む各種イベント等を通じて高校生や保護者などが農大を訪れ、その魅力に触れる機会の更なる創出に努めていただきたい。 ●農大の魅力、他大学との違いは何か？農大では実践教育、実践力が養われる、作物や但馬牛を育てる力がつく ●農業高校との接続性、魅力ある教育の強化には期待が大きいので研究テーマ案はさらに増やしてもよい ●高校訪問で農大職員が説明するより学生が魅力を説明したほうが良いと思う ●キャリア設計や就職率、卒業生の活躍を紹介し、農大で学ぶことのメリットを理解してもらえたら出願者数も増える	Ｂ

区　分		３年度	２年度	元年度	30 年度	29 年度	28 年度
出願者数		61（13）	63（14）	48（9）	36（6）	76（20）	54（11）
入学者数	農産園芸課程	29（6）	27（8）	24（7）	19（2）	30（4）	29（14）
	畜産課程	8（2）	13（5）	11（1）	4（3）	5（1）	10（3）
	計	※37（8）	40（13）	35（8）	23（5）	35（5）	39（17）

※３年度の入学者数は３月９日入学試験（後期）の合格者３名（１）を含めて計上

重点目標：②　実践的教育の充実・強化

現状、課題

〈 現状 〉

○普通高校出身者の増加に伴い、入学時に学生間の農業に関する知識・技術の格差が拡大している。

○教育目標・方針に沿った適切なカリキュラム編成に向け毎年見直している。

○実習を重視した実践的な教育を行っているが、キャリア教育が不十分

○資格の積極的な取得を奨励しており、主要な資格には担当職員を充てて濃密な指導を行っている。また、大型特殊自動車運転免許や家畜人工授精師等は実習に組込み資格取得をしやすい体制づくりに努めている。

〈 課題 〉

○農業の基礎学力の充実と学生の技能・知識の向上

○教育目標・方針に基づく実践的な農業教育の実施

○専修学校として特色ある学校づくりを推進

○卒業論文課題研究の中に経営的な視点を入れ、厳しい農業情勢の中にたくましく発展的な農業経営を続けるノウハウや信念を養成する必要がある。

評価項目

農業の基礎的・基本的知識を確実に習得させ学力向上を図る。

資格試験・検定試験のチャレンジ、合格率向上

具体的方策及び評価指標

〈 方策 〉

1　高校普通科出身者の基礎知識の習得支援
令和２年度から入学時に農業の基礎的な知識を問う実力テストを実施。テスト結果をもとに３クラスに分けて※「農業基礎Ⅰ」カリキュラムを実施
※「農業基礎Ⅰ」：日本農業技術検定受験支援講義

2　各種事業や制度を利用した実践型教育を強化するための施設、機材等の環境整備

3　連携協定締結組織等との取組深化（東洋食品工業短期大学、イオンアグリ創造株式会社他）

4　直売施設（夢花菜）や県民農林漁業祭、収穫祭等での販売体験を通じて、原価計算やマーケティング力を養う。

5　早期に就農意欲を高めるため、１年次の農家派遣研修の実施に移行する（令和３年目標）

6　スマート農業に関する学習機会の提供（ドローン操作、環境制御技術など）

7　多くの機会を捉え資格取得を奨励する

〈 指標 〉

○資格・検定試験の合格者・合格割合の目標

- 大型特殊免許（農耕）　：卒業生全員合格
- 農業機械利用技能者　：７割合格
- 指導農業機械利用技能者：５割合格
- 毒劇物取扱責任者　：５名以上合格
- 危険物取扱者　：10名以上合格
- 日本農業技術検定　３級：全員合格
  ２級：７割合格
  １級：１名以上合格
- 家畜人工授精師　：畜産課程全員合格
- ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ、ｱｰｸ・ｶﾞｽ溶接、小型車両建機
  ：全員合格
- 全国ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ・意見発表会での発表、上位入賞
- 懸賞論文応募　：５名以上

※　過去の受検・合格状況から目標値を設定

経過・達成実績

1　コロナ禍のため、日本農業技術検定の令和２年度第１回（７月）が中止となり、第２回（12月）に１年生18名が３級受験し、全員合格した（１年生は３級保有者40名中26名に）

2　実践型教育強化のための農業実習用施設機械の整備
ＪＡ共済連兵庫からＧＰＳ直進アシスト機能付トラクター（成形ロータリ、肥料散布機）、牛舎細霧冷房装置、カラードプラー超音波診断装置（牛用）の寄贈、国庫事業活用により花きガラス温室のＩＣＴ対応整備、乗用管理機等を整備

3－1　ＧＡＰ及びスマート農業に先進的に取り組むイオンアグリ創造株式会社（三木市）、集落営農法人「農事組合法人アグリード玉野」（加西市）等での現地研修、講義を実施。

3－2　６次産業化教育として、東洋食品工業短期大学と連携した100周年記念品「農大カレー」の製造、記念式典で配布

4　コロナ禍で県民農林漁業祭の縮小、農大収穫祭が中止。代替として、学生がコロナ対応基準を守りながら休日の自主的販売活動やインターネット販売を実施

5　農家等派遣実習を１年次実施に移行にあたり、１、２年全学生で20日間の実習を実施（令和３年は１年が40日間で実施）

6　スマート農業学習としてドローン操作実習を全学年で実施

7　農業簿記検定３級の団体受験を開始し、21名が受験し７名が合格（令和２年12月）

令和２年度卒業生（34名）の資格・免許取得実績

資格・免許名称	受験者数	合格者数	合格率
大型特殊免許(農耕限定)	34	34	100.0
農業機械士	32	18	56.2
指導農業機械士	11	5	45.4
毒劇物取扱責任者	0	0	0.0
危険物取扱者	3	3	100.0
日本農業技術検定３級	33	30	90.9
２級	15	3	20.0
１級	1	0	0.0
農業簿記検定３級	21	7	33.3
家畜人工授精師　※	延期		—
フォークリフト	21	21	100.0
アーク溶接	20	20	100.0
ガス溶接	16	16	100.0
小型車両建機	26	26	100.0
懸賞論文応募	0	0	0.0
全国プロジェクト・意見発表会	発表者1	優良賞入賞	

※　家畜人工授精師は令和３年８月に延期された

次年度の課題と改善策

○レベル別教育カリキュラムの強化
- 日本農業技術検定の２級合格者の増加
- 取得者数が少ない資格への斡旋を強化
- 懸賞論文応募への積極的誘導

○実践的教育の充実
- 農業高校と合同で実習カリキュラムの研究を行い、一貫性のある農業教育を目指す
- 農家等派遣実習のフォローアップとしてインターンシップを積極支援する

○スマート農業の実践カリキュラムの強化
- ＩＣＴを活用した環境制御技術の実践学習（施設園芸）
- 但馬牛の分娩管理技術（遠隔管理、超音波診断など）

○コロナ禍の影響を受けた販売・マーケティング実践の復活

学校評議会委員意見

●資格・検定試験の合格者・合格割合が目標を下回っているものが散見される。試験への挑戦意欲を高めるような指導も必要かと思われる

●仕事説明会参加者などのインターンシップに県事業を活用いただけたことはありがたい。引き続きの利用をお願いしたい

●国庫事業の活用等により、実習用施設機械の整備が進み、効果的な実習が期待できる

●スマート農業の実践カリキュラムの講座は農大だけで背負うのではなく、例えば卒業生などの先進農家の協力を積極的に得てはどうか

●東洋食品工業短期大学、イオンアグリ創造（株）との連携協定は魅力を感じます

●キャリア教育の不十分に関して、実際に農業経営者と関わる機会を設け現状を知る、専門家による講演会があれば学生に知らせ可能なら優待券等を確保する、レポート課題を頻繁に課し主体的に課題発見と解決策考案の力を身につけるトレーニング等を行うのはどうだろうか

●農大職員の実践的教育手法の更なる向上を図るため、農業高校や教育研修所等への派遣や研修・講習等の受講なども検討願いたい

●各専攻での実践力を高める。卒論の課題設定、実験、考察、まとめの支援・・目標の明確化、目標が達成できた要因、達成できなかった要因（原因）がわかるように支援・・支援・指導する職員の指導力、実践力を養う必要

達成度

B

重点目標：③　多様な進路に向けた学生指導の充実

<table>
<tr><th>現状、課題</th><th>評価項目</th><th>具体的方策及び評価指標</th><th>経過・達成実績</th><th>次年度の課題と改善策</th><th>学校評議会委員意見</th><th>達成度</th></tr>
<tr>
<td>〈 現状 〉

○法律に基づく無料職業紹介事業により、進路担当者を定め、個々の学生に対する就職相談・指導に取り組んでいる。

○非農家出身で生産基盤を持たない学生が増加しており、就農の形態も自営就農だけではなく、農業法人等への雇用就農が増加している。

○直近5年間（H27～R1）の進路決定率は99％であり、就農率は34％、就職率は63％（うち農業関連産業等は52％）で、進学率は2％である。

○学生の就農・就職後のフォローが出来ていない。

〈 課題 〉
○学生の進路決定率及び就農率の向上を図る。

○卒業後の多様な進路に対応できる教育活動を実現する。</td>
<td>進路希望や就農・就職活動状況の把握

進路決定のための情報提供

卒業後の多様な進路に対応できる進路指導</td>
<td>〈 方策 〉

1　就農・就職支援活動の強化と情報提供
学生ごとの進路希望把握と職員間の情報共有

2　兵庫県農業法人協会等と連携した雇用就農への取組強化

3　就農希望者への特別専攻実習の実施

4　農業次世代人材投資資金関係の説明会、相談会の開催

5　面接・マナー講座を開催

6　学生からの希望に応じたハローワーク等からの求人情報の収集と情報提供

7　就農・就職後の就農・勤務状況の把握とフォローの実施（近年の就農・就職後の卒業生の情報を収集、過去就職実績のある雇用法人訪問調査）

〈 指標 〉

○進路決定率：100%

○就農、農業関連企業内定率：80%以上</td>
<td>1　個人面談の随時実施と職員間の情報共有
６月に全学生、１月に１年生の進路希望を把握して、早期に誘導、情報提供、活動支援に努めた
2　雇用就農への取組強化
・兵庫県農業法人協会による農業法人就職相談会への参加促進
・（一社）兵庫県農業会議・ひょうご就農支援センターが主催する農業インターンシップ研修、短期の農家研修などへの参加を促進
・ひょうご就農支援センター及び農業改良普及センターと連携した新規就農希望者へのサポート実施（雇用就農者のレベルアップ研修の開催）
・農業法人派遣実習として、１年生を対象に雇用就農を受け入れている県内のＪＡ等出資法人３社やＩＣＴ活用スマート農業取組会社２社で雇用就農の実際を学んだ（10/27～29）。
・姫路市の事業を活用して同市内の先進的農業法人での研修、施設見学を実施（12/16）
3　就農希望者２名が特別専攻実習を野菜農家で実施し、卒業後はそれぞれ独立自営及び雇用就農者として就農
4　農業次世代人材投資資金（準備型）を推進した結果、９名が活用
5　面接・マナー講座の開催（1/25）、採用試験前の面接練習を随時実施、コロナ禍でのオンライン面談に対する環境を整備
6　求人募集の掲示など無料職業紹介所としての機能を発揮
7　平成24年以降の卒業生の就農・就職情報を整理し、農業高校の進路指導担当教諭と情報共有した。

R2年度卽業生の進路内定（R3年2月末現在）
<table>
<tr><td colspan="2">卒業生</td><td>31名</td><td colspan="2">内訳</td></tr>
<tr><td rowspan="2">就農</td><td>自営</td><td>2</td><td rowspan="2">15
(48.3%)</td><td rowspan="4">29
(93.5%)</td></tr>
<tr><td>農業法人雇用</td><td>13</td></tr>
<tr><td rowspan="4">就職</td><td>農協等団体</td><td>8</td><td rowspan="3">14
(45.2%)</td></tr>
<tr><td>農業関連産業</td><td>5</td></tr>
<tr><td>公務員</td><td>1</td></tr>
<tr><td>その他産業</td><td>0</td><td>(0%)</td><td rowspan="3">2
(6.5%)</td></tr>
<tr><td colspan="2">進　学　等</td><td>2</td><td>(6.5%)</td></tr>
<tr><td colspan="2">未　定</td><td>0</td><td>(0%)</td></tr>
</table>
進路決定率：100％　就農率：48.3%　農業関連：93.5%</td>
<td>○早期からのキャリア教育の実施と、雇用就農に関する意識づけ
・農家等派遣実習を就農意識醸成のため１年生に完全移行する（40日間）。
２年生及び１年生（派遣実習後）にインターンシップ等による就農促進を実施する。
・農業法人等への現地研修の増加
・県農業法人協会と連携した就職相談会の拡大
・雇用就農、雇用から独立就農した農大卒業生による体験発表講座

○多様な進路情報の提供
・ハローワーク支援員と連携した就職セミナー開催
・公務員、4年生大学編入希望者向け進路指導

○就農した既卒者の現状把握とフォローアップ
・現状調査（雇用就農の継続、独立就農、転職等の確認）と今後の意向把握
・希望者の情報を県就農支援センター（兵庫県農業法人協会）及び地域就農支援センター（農業改良普及センター）へ提供し、マッチングを推進
・転職等した既卒者には、転職に至った要因を聞き取り調査
・新たな農業法人に転職を希望する者へのフォローアップとマッチング
・雇用就農を経て独立就農を計画している者を対象に、各種支援制度の活用、経営やマーケティング、労務管理等を研修し独立後の経営安定を支援</td>
<td>●令和２年度の進路内定を見ると非常に高い数字をあげているので、これを継続していただければと思います
●農業関連への進路がほとんどということで、大学校の担い手育成の目的が達成されており、非農家出身者の多いなか、特筆すべきことである
●インターンシップや学生が年齢の近い農大ＯＢから就農体験談を直接聞くことなどは、就農促進、定着に向け効果があると考える。積極的に取り組んでいただきたい
●キャリア相談室を設け、学年を問わず気楽に相談できる場を作る。
ハローワークとの連携を強くし、学校で学んだことを生かせるより幅広い職業を提案する。（高校生にとっても魅力的）
●引き続き県の関係事業活用による就農への誘導をお願いしたい（就農支援関係の年間スケジュールを整理して情報提供させていただく）
●雇用就農等の多様な進路に対応するため、県内で活躍する農大ＯＢ農業者等へのインターンシップ派遣や体験発表講座開催などにより、それら農業者と接する機会の創出と農大ＯＢネットワークを活用した就農活動の充実拡大に引続き取組み願いたい
●学生の個別指導カルテを作成し、きめ細かな指導を行う</td>
<td>A</td>
</tr>
</table>

重点目標：④　学生の自主活動の活性化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議会委員意見	達成度
〈 現状 〉 ○80 名近くの全寮制であるため地震や火災、インフルエンザ等感染症対策など学生の安全確保が随時の課題になっている。 ○収穫祭や東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会等の行事運営を学生の自主的活動による実施を基本としている。 ○寮生活において学生自治会の主体的活動に誘導を図っている。 ○学生間のトラブルを未然に防ぐ必要がある。 〈 課題 〉 ○危機管理体制の構築 ○学生の自主的な活動を支援 ○寮の環境美化と快適な寮生活の実現	危機管理対応の初動訓練等、安全確保対策の実施 学生生活環境の整備改善 社会規範意識を高め、基本的生活習慣の適正化	〈 方策 〉 1　新型コロナウイルス対策の徹底を図った上で、安全・安心な寮生活を送る 2　安全・安心な学校生活の維持 ・震災、火災時の対応に役立つ防災訓練を消防署の協力のもと実施、焼却を行う場合の責任者等の明確化 ・交通、防犯、防災講座を通じ社会的ルールの遵守 3　寮生活（自治会活動）を通して社会人としての心構えを学ぶ ・自治会、寮長の活動支援 ・講義受講態度、実習取り組み態度 ・健全な寮生活 ・衛生管理習慣の徹底 4　学校行事（スポーツ大会、農大収穫祭等）の企画運営を通じた学生間の仲間づくり、大学校のＰＲ、販売実践 5　創立 100 周年記念事業への参画をすすめる 〈 指標 〉 ○危機管理のための訓練・講習会の実施 防災訓練１回　交通安全講習会２回 ○収穫祭の学生主体での実施と学生の全員参加 ○兵庫県農林漁業祭への学生の積極的参加 10 人以 上 ○寮の環境美化と快適な寮生活の実現 年間 10 回程度 ○学生代表者の参画による 100 周年記念モニュメントの建立および同窓会活動への参画	1　新型コロナウイルス対策を踏まえた生活・学習スタイル定着 ・「農業大学校新型コロナウイルス対策指針」の策定及び緊急事態宣言を踏まえた対処を推進し、ウイズコロナ時代の学校運営、学生及び職員の行動変容を図った ・マスク着用徹底、毎日の体温測定、食堂の利用人数制限に伴う食事ローテーション、長期休暇時の行動記録、不急・不要の外出自粛などが定着 2　安全・安心な学校生活の維持 ・学生及び職員参加による防災訓練と消火訓練実施（加西消防署協力６月実施） ・交通安全講習会実施（加西警察署協力７月、12 月実施） 3　寮生活（自治会活動）を通して社会人としての心構えを学ぶ ・校則、寮生活遵守事項、学生間のトラブル解決等は、基本的には自治会主導で問題解決を話し合うように誘導 ・校内環境整備活動（６月以降、7 回）による美化意識の醸成を図った ・感染症対策危機管理の徹底（手指消毒ポイントの設置、寮室の仕切り設置） 4　学校行事を通した学生間の仲間づくり、大学校のＰＲ、販売実践 ・コロナ禍のなか、東海・近畿ブロック農業大学校スポーツ大会、農業大学校収穫祭が中止 ・収穫祭中止の代替としてコロナ対応基準を遵守したうえでの専攻別に自主企画販売会を開催 ・県民農林漁業祭もコロナ禍で規模縮小して、ひょうご「農林水産物」直売市（10/17･18）が開催され、前日準備から当日販売に野菜及び花き専攻学生26名が参加し、自主企画販売会のＰＲも実施 5　創立 100 周年記念事業への参画 ・学生の参画による 100 周年記念事業の盛り上げ及び同窓会活動への参画 ・モニュメントのデザイン及びタイトルを学生に公募した結果、18 点の応募 ・モニュメントのデザイン及びタイトル決定には学生代表も選考に関わり、結果的には学生応募作は採用されなかったが、意見は反映 ・記念式典放映用動画、農業大学校ＰＲ動画の作成に学生が参加 ・記念シャツ「農一筋」を学生が自主的に作成 ・校舎前庭園の植栽 ・式典当日の参加者の円滑な誘導、会場整理	○危機管理・健康管理対策の徹底 ・「農業大学校新型コロナウイルス対策指針」の随時更新と実践の徹底 ・危機管理マニュアルの徹底 ・問題の早期発見、対処等による安全・安心な学校生活の保持 ○学生自治会活動の充実 ・学生の生活指導の充実改善 ・自治会の自立的活動への支援 ・収穫祭を未経験の２年生による運営	●寮生活において、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して実践し、安全、安心な 学校生活が維持できている。 ●学校行事の中止は続いたが、創立 100 周年記念事業への参画により、学生同士の仲間意識は高まったのではないか ●農大の特長の１つである規則正しい寮生活による基本的生活習慣の励行と学生自治会活動を通じた自主的活動の喚起により、社会人としての心構え・行動を身に付けられるよう引続き指導願いたい。また、学生間や教職員等との信頼関係・連帯感等を高めるため、引き続き常日頃からのコミュニケーションと危機管理等を通じた指導助言による安全で安心な学校生活の推進に努めていただきたい ●全寮制でコロナ対策がたいへんだと思うが、安全安心な寮生活を送るための健康管理、危機管理の徹底 ●寮内での課題を取り上げ対策を寮生で話し合う機会を設ける。マナーに関してはポスターを貼る等でまずは集団生活における意識改革を行う	B